

# あすを拓く



株式会社 TBM  
代表取締役社長  
山崎 敦義さん

株式会社TBMが開発したLIMEX（ライメックス）。環境破壊や資源不足に悩む国々に強烈なインパクトをもたらした革新的な新素材が宮城で産声をあげ、世界へ羽ばたこうとしている。

**プロフィール**  
1973年生まれ。20歳で中古車販売業を起業後、複数の事業立ち上げを行う。2011年に株式会社TBMを設立し、LIMEX（ライメックス）を開発。2014年ニッポン新事業創出大賞「復興賞」、Job Creation 2015「特別賞」、Japan Venture Awards 2016「東日本大震災復興賞」受賞



ライメックスペーパーの原材料である石灰石。その埋蔵量は測り知れない



研究開発と人材育成の拠点として位置付けられる白石工場



地元若者を採用し、ともに世界への進出を目指す

商社や広告代理店から、高い関心や反響をいただき、ストーンペーパーの商品力と事業の将来性をあらためて実感しました。しかし、売り上げは思うように伸びなかった。普通紙より比重が重く、高価な割に品質が不安定だったからだ。「水を使わない」という利点も、水が豊富な日本では、ビジネスにつながる決定打とはならなかった。

研究開発にこぎつけた。そして、粉末石灰にペレット状のポリエチレンなどを混ぜて加圧し、シート状に引き伸ばす独自製法の開発に成功。2011年に特許申請した新素材は、英語で石灰石を表す「LIME」と未知数の意味を持つ「X」を合わせ、「ライメックス」と名付けられた。

きた。経済的に潤った時期もあれば、失敗して傷ついたこともあったという。こうした紆余曲折の中で出会った、たくさんの経営者の話から、山崎社長は「起業家人生をどう終えるべきか」について考えるようになった。そして、たどり着いた答えが、ライメックスで100年後も続く、グローバルな事業を展開することだった。

## ストーンペーパーに将来性を感じて日本への輸入事業をスタートさせる

山崎敦義社長がストーンペーパーと出会ったのは、日本で「エコ」が社会的なブームとなり始めた2008年のことだった。

紙を1トンの水が必要だといわれている。木と100トンの水が必要だといわれている。それに対し、ストーンペーパーは、石灰石を主材料とし、樹木や水といった貴重な資源を消費しない。

「これはエコな商品としてヒットするのではないか」。そう思った山崎社長は、すぐに台湾に渡りメーカーと交渉し、代理店契約を結んだ。

「国内で営業活動を進める中で、著名な

ストーンペーパーの改良の必要性を感じた山崎社長は、知人から日本製紙株式会社で専務取締役を務めた角祐一郎氏（現TBM取締役会長）を紹介された。「角会長のアドバイスを元に、台湾のメーカーと何度も交渉し、改良点を訴え続けました。しかし、メーカー側は、なかなか受け入れようとしてくれませんでした」。このまま交渉を続けても仕方がない。山崎社長は、角会長に相談しストーンペーパーの自社開発に踏み切った。

開発には、莫大な資金が必要になる。資金調達のため、世界中を駆け回った山崎社長は、産業化や人口増加が進み、水不足に悩む国がたくさんあることを知った。ストーンペーパーが世界中で求められていることを再確認できたが、事業の第一歩を後押しするスポンサーは、すぐには現れなかった。

開発の協力先も、なかなか見つからなかった。それでも、山崎社長はあきらめることなく、企業や大学と粘り強く交渉し、

そんな折、山崎社長のもとに、経済産業省から助成金採択の通知が届き、事業化への道が拓けた。

東日本大震災からの復興の道をひた走る宮城県で生まれた新素材が、世界に向けた第一歩を踏み出す。そんなストーリーを思い描いた山崎社長は、一つ目の工場の建設地に白石市を選んだ。海外からも人が視察に訪れることを想定していたため、近くに新幹線の駅があることも決め手となった。

さらに、2015年には多賀城市に二つ目の工場を建設することを決めた。

「震災直後に訪れた被災地で、世界中から駆けつけた救急隊員の姿に驚きました。私と同様に「世界」を感じたであろう子どもたちが成長し、日本の技術を持って海外で活躍する。そのきっかけとなるような工場を作り、次の世代につなげていきたいです」と山崎社長は思いを語る。



多賀城工場建設予定地。今後、世界展開していくためのマザー工場としての役割を担う



ミラノ国際博覧会で使用されたライメックスペーパー製のポスター・入館証のカード・手提げ袋。白石工場で作られた製品が、海を渡り世界の人々を驚かせた

## 株式会社 TBM

2011年設立。地球に無尽蔵に存在する石灰石を主原料に、紙やプラスチックの代替となる新素材 LIMEX で製品を製造・販売する。2015年、白石市にパイロットプラントを建設。2017年には多賀城市に第2工場が竣工予定。TBMはTimes Bridge Management の略で、同社の理念である「時代の懸け橋となる企業」を表している

■所在地  
本社：東京都千代田区丸の内1-3-1  
白石工場：白石市大鷹沢三沢字前輪55  
TEL 03-6212-7270(本社)  
FAX 03-6212-7271(本社)  
https://tb-m.com/

